



論説 / Editorial

人間に不可欠のもの

The human necessity

The Christian Science Journal, vol 124 number 11

クリスチャン・サイエンス・ジャーナル より転載 第124巻 第11号

Rebecca Odegaard / Contributing Editor

レベッカ・オウドガード / 編集委員

聖書には、友人たちの集っている様子を描写する5つの短い文による話がありますが、それは非常に大きな意味をもつものなのです。そこにいたのは、マリヤとマルタという姉妹と、イエスでした（ルカ 10:38-42参照）。彼らは、今日でも友人たちがするように、食事をするために集まっていました。この情景は、きわめて重要な教えを含み、多くのことを学ぶ機会を与え、そのメッセージは私たちの人生を変えるほどのものなのです。

マリヤが、イエスの足もとに静かに座って、イエスの話を聞いているとき、マルタは、忙しく食卓を整え、食事を用意しながら、ひどく不満をぶちまけます。マルタは、イエスを責めます、妹が手伝ってくれないので、自分はこんなに忙しいのに、それを理解してくれないイエスを責めるのです。イエスは、マリヤに対して、マルタの求めるように、マルタを手伝いなさいとは言わず、むしろ次のように忍耐強く説明するのです：「無くてならぬもの」はただ一つ、そして、マリヤは「その良い方を選んだのだ」と。そして、さらにイエスは、この「良い方」を、マリ

他の日本語記事については、次をご覧ください：<http://www.spirituality.com/christiansciencesakigake/index.jhtml>

© 2009 The Christian Science Publishing Society (CSPS). この記事は、50部までプリントアウトして、非営利として実費で提供することができます。この記事を手紙 (email) で送ったり、ウェブサイトに載せたりすることはできません。代わりに、CSPSのウェブサイトに掲載されているこの記事へのリンクを、メールしたり、ウェブサイトに載せたりしてください。この記事を手紙に転載する許可を得るには、copyright@csp.com宛に、メールをお送りください。件名は、英語で "Copyright Request" としてください。

ヤから取り去ってはならない、と言うのです。

この姉妹は、人間の意識を象徴していると言えましょう。物質的な衝動と、霊的な衝動が混ざって、綱引きをしているのです。マルタは、私たちの慣れっこになっているもの、注意散漫、取り乱し、重圧、活動などで、人間生活が一般に要求するものを現しています。一方、マリヤは、霊的な姿勢、つまり静かに断固として、神性なるものに謙虚に献身し、**キリスト**に絶えず注意を向け、**真理**に耳を傾ける用意があることを象徴しています。

マリヤが、あの夜、ベタニヤで選んだ、ただ一つの無くてはならぬものは、今日、私たち皆にとっても変わっていません。**キリスト教科学**において啓示された、癒し、生まれ変わらせる**キリスト**は、私たちが最優先すべきものなのです。私たちは、**神**の実際的な善意を、深く絶え間なく受け入れなくてはなりません。そして、この善意は、**神**を知り、**神**を愛し、**神**に耳を傾けることによって、得られるのです。また、それを行うことにより、私たちは、愛の最高の形、つまり霊的癒しを通して、隣人を心にかけることによって、この善意を表わすのです。

世界各地にある**キリスト教科学**の多くの教会の壁に刻まれている、メリー・ペーカー・エディ著『**科学**と健康—付聖書の鍵』にある次の言葉が、聞く人すべての心に話しかけています：「神性の**愛**は、人のあらゆる必要を常に満たしてきた。そしてこれからも常に満たす」（p. 494）。

かつて、エディ夫人の「必要」という言葉と、「不可欠」という言葉の使い方について調べたところ、今、直ちに、必要であるものについての私の認識が高められました。エディ夫人は、「**神**を敬うこと」は、「人間にとって不可欠のことである：人はそれなしには生きることができない；**神**を敬うことなくして、人には、知性も、健康も、希望も、幸せもない」（*Message to The Mother Church for 1901*, p. 34）と述べています。

イエスの友マリヤは、この神を敬うことの必要を感じ、喜んでそれを選んだに違いありません。私たちも、毎時、一刻一刻、この天国の意識を持つことができます。私たちも、思考の中で、「マリヤ」を優先させ、「マルタ」的な混乱を抑え、神を敬うことのみ、思考と注意を向けていることができます。

神を敬うことは、私たちが癒しのために装備します。それは、私たちの献身的な愛を必要とし、そして、私たちが神性の愛の恵みを見ることができるようになります。霊的実在は、無限で、達成可能な善を約束するものなので、日々の生活の中ですべてに優先させることができるのです。そして、私たちが最大の必要を満たしてくれるものが選べるように、混乱から解放してくれます。

キリストの足もとに心的にひれ伏して、私たちが真実だと知るものを選ぶためには、常に自分に言い聞かせていることが必要ですが、そうするならば、それが自然であり、努力無しにできるようになり得るのです。神を敬うことを選んだ結果が、隣人を、いっしょに食事をしましょうと台所のテーブルに招き、心を霊的に満たすものを何かしら与えるというような、小さなことであるかもしれません。キリストの声に耳を傾けていると、人々との出会いすべてが、癒しの機会となり得るのです。

イエスが行く所どこでも、キリストの現存が、その空間に漂っていました。日常のできごとが、貴重な、掛けがえのない教訓となりました。エディ夫人は、こう書いています：「イエスが弟子たちといた時、つり舟は聖所となり、荒野、つまり独りぼっちの空間が、すべてなる父からのメッセージをもたらす人々の声に満ちる場となった」（*Retrospection and Introspection*, p. 91）。

私たちが、「神が私たちと共にいる」という、静かな、しかも力強い現存に委ねると、日々の出来事が、特別な機会となってきます。癒しの時になってくるのです。すると、私たちの食卓

に、あるいは私たちのまわりに、集まる人々も、みな誰でも、生まれ変わらせる**キリスト**の現存と力を感じて、この「良い方」を選ぶことを望むでしょう。